

「土の中の不思議な世界」

山田 益弘 (千葉市)

日 時： 2009年2月8日(日) 午後1時～3時

参加者： 16名(大人10名 子ども6名) 指導員21名

担当指導員： 佐野由輝・山田益弘

晴天ながら北風が強く寒い日でしたが、元気な子ども6名を含む観察会となりました。

- 1) 土壌サンプル(森林土壌の上の層、中間の層、下の層、海岸の砂・計4点)で
 - ・海岸の砂と、上の層の森林土壌とで重さと粒の形状の違いを。
 - ・上の層、中間の層、下の層とで重さと色の違いを。実際に手で持って実感してもらいました。一番重く、粒の大きいのは海岸の砂。色は上の層のクロが目立ちました。
- 2) 切り通しの土壌断面場所にて、地表付近の黒い土の層(植物の根や土壌動物、微生物などの活動が活発な層)と、その下の褐色がかかった土の層に分かれていることを確認し、又硬度計にて土の硬さを計測した結果、層によって硬さの違いも判りました。
- 3) アスレチック広場周辺で歩道と森林土壌の比較をしました。
 - ・足の裏で土の感触(硬い歩道と、柔らかい森林土壌)を確かめ。
 - ・浸透実験では、森林土壌の方が水を吸い込むのが明らかに速かった。大雨が降っても、森林の土があっという間に水を吸い込んでくれる。逆に、森林の土は水をたくさん貯えてくれるので、日照りが続いても川の水はかれない等、森林土壌のはたらきを説明し、その大切さを理解してもらいました。
 - ・温度計にて気温と地温の比較(地温は地表から約30cm 地中へ温度計セット)
午後1時30分 気温13℃、地温9℃。午後3時 気温14℃、地温9℃。と地温の変化の少ないことも判りました。(朝9時 気温11℃、地温9℃でした)
 - ・森林土壌部分を実際に掘ってみて、切り通しの土壌断面と同様に層の分かれも確認出来ました。
- 4) 土の中の生き物は・・・。

日溜りにあった丸太の下からヒメミミズ、ナメクジ、ダンゴムシや線虫の仲間、甲虫の幼虫など多くの生き物が身を守りながら生きている姿も確認できました。

多くの参加者が初めてと云われた「モグラ穴」を子ども達が数多く見つけ大興奮でした。

子ども達の見線の素晴らしさに、

ほとほと感心の大人達でした。

土の中の不思議な世界を“チョット”だけ覗く事が出来ました。

今回は実際に探して、観て、触って、測って、実験して…の体験型観察会で楽しかった、

とのお言葉を参加者から頂き一安心でした。

(穴を掘ることは事前に事務所の了解済み、又元通り埋め戻しました)

